Yamaguchi Meiji Restoration - historical building Map

特集 弐 史料編

山口明治維新歴史的建造物マップ

山口新御屋形（山口城）の建物は、江戸桜田邸の用材を廻漕。

長州藩が破約撰夷を藩是として、山口移鎮と山口城の構築を指向したおり、藩内では「八稜城を基とし土居取建」・「洋制の通り濠を掘り、土塁を築き、砲門を開き・・・」としているように、西洋の城制に倣い、稜堡式の塁壁と重火器を備えた城郭の築造を目指していたことがわかる。それとは対照的に、文久3年5月23日に幕府へ提出した移城申請書には「山口の儀は全く城構えなどはせず、真の土居をつき、手近かな家来ばかりを置き」と記している。掲載した「山口御屋形差図」は、どちらの意図を汲み取って作成されているのだろうか？

長州藩の申請に対し、幕府の返答は6月8日にあり、絵図等を添えて再度申請するようにと指示があった。新規築城はもちろんのこと、部分的な修築の場合でも絵図を添えて申請するのがならわしであった。山口城の城地選定と縄張の作業が終わったのは文久3年7月と推定されるので、5月の申請時には、絵図・差図など提出できる段階にはなかったといえよう。では何故そのような状況のもとで申請を強行したのか？という疑問がわく。

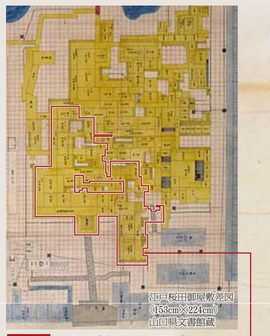
それを理解するには、背後に展開する歴史の縺れを紐解いて行かねばならない。

長州藩が絵図を添えて再び申請したのは元治元年になってのことであるが、幕府側からは何の応答もなく、完全に無視された。11月の長州征討に際して、山口城が「新規構築の城郭」として破却の対象となったのは、このような背景を背負っていたからであった。因みに「山口御屋形差図」は、提出した絵図の控として作成されたものとも考えられる。

閉長石蔵より

山口城内表御殿の御式台（正面玄関）
屋形を象徴する建造物の1つで、元治元年10月に竣工したが、同年の12月には破却された。明治の修改築で同2年8月に再建され、山口県庁に引き継がれた。大正期の県庁改築で移築され、旧公会堂の地に昭和30年代まで存続した。

解説文／桑原邦彦　参考引用文献／「文久の『山口移鎮と山口城に関わる諸問題』」（山口県地方史研究91号、2004年）、「『山口城の絵図差図と繩張り』について」（山口県地方史研究95号、2006年）、「『山口御屋形（山口城）の築造年代と繩張り』」（山口県地方史研究105号、2011年）



江戸桜田御屋敷差図（159cm×224cm）
山口県文書館蔵

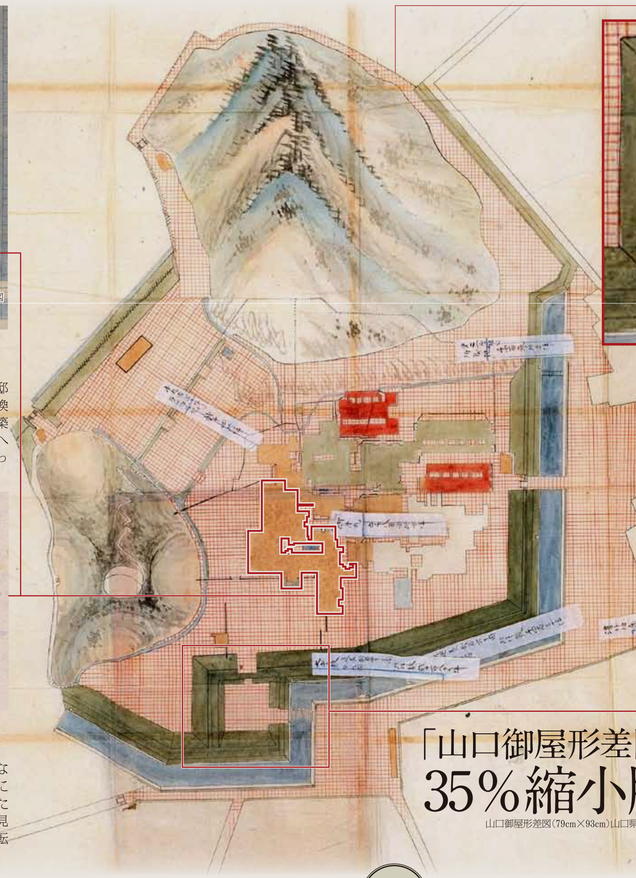
ここが面白い！❶ 江戸桜田御屋敷の解体と移築再生

文久2年参勤交代制が緩和され、江戸藩邸は不要のものとなった。一方、攘夷に転換した長州藩では、山口移鎮と山口城構築の構想が進み、桜田邸を解体して国元へ廻漕し、用材として使用することとなった。3つの差図を比べて見てみよう。

山口御屋形差図（54cm×54cm）
山口県文書館蔵

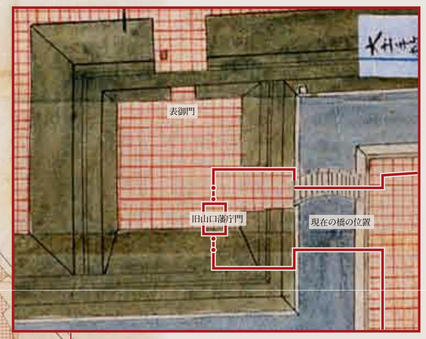
ここが面白い！❷ 実際に建築された御屋形の主要部分

差図の建物は政庁など藩主の公の場、すなわち表御殿の部分に限られている。これに奥の部分を加えて、御屋形として竣工したのであろう。中央の「山口御屋形差図」に見える建物群の東側の部分は、築城構想の転換で空閑地のまま残された。



「山口御屋形差図」
35％縮小版

山口御屋形差図（79cm×93cm）山口県文書館蔵



「山口御屋形差図」
原寸大で見る枡形部分

ここが面白い！❸ 山口御屋形差図と現在の旧山口藩庁門の位置関係

枡形の塁壁は、侵入した敵を囲って殲滅する防御施設である。山口城では、もともと枡形北辺の塁壁に設けた表御門（石門）をへて本丸へ入る仕組みであった。明治3年、新たに薬医門として再建された旧藩庁門との位置関係を対比してみよう。

デジタルアーカイブ
B 山口県文書館

山口県山口市後河原150-1 山口県立図書館2階 TEL 083-924-2116
開館時間　9:00 ～ 17:00〈資料請求時間：9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 16:30〉
閉館日：月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検準備

「山口御屋形差図」は山口県文書館webサイトで高画質画像を閲覧することができます。

閲覧の仕方
①山口県文書館webサイトにアクセスする。
②画面左の メニュー「デジタルアーカイブ」をクリックする。
③開いたメニューから「高画質ダウンロード」をクリックし、画像一覧の「47山口御屋形差図」をクリックする。
④表示された絵図をクリックし、高画質画像を閲覧する。
★画像を出版物等に掲載する場合は、別途掲載申請が必要です。

詳しくは山口県文書館webサイトでご確認ください。
http://ymonjo.ysn21.jp/　山口県文書館　検索

歴史年表

History

1864 元治元年

- 6月4日 池田屋事件
- 6月5日 西国諸藩が禁門の警衛を命じられる。
- 6月24日 桂小五郎（木戸孝允）が薩摩藩邸に匿まわれる。
- 7月19日 禁門の変
- 7月23日 「第一次長州征伐」の勅命が下る。
- 8月5日 英米仏蘭の四カ国連合艦隊が下関を砲撃、長州軍敗北。
- 8月25日 幕府、第一次征伐を諸藩に通達。
- 9月26日 周布政之助自刃
- 9月下旬 保守派（俗論派）が政権掌握。
- 10月3・4日 毛利父子、萩に擁せられる。政事堂も萩城内へ復帰。
- 10月16日 山口新御屋形（山口城）竣工。
- 10月21日 諸侯に対し解散令を出す。
- 10月23日 敬親は「第一次征伐」を諸侯に対し通達する。
- 11月 征長軍防長二洲へ迫る。
- 11月11・12日 長州藩俗論派政府、禁門の変の責任者として三家老（益田右衛門介・福原越後・国司信濃）を斬首。
- 11月19日 征長総督徳川慶勝、敬親父子の伏罪要求。
- 11月29日 山口新御屋形（山口城）破却。
- 12月15日 高杉晋作、功山寺にて決起。三家老・四参謀の変を鎮圧（第一次長州征伐）。
- 12月上旬 山口新御屋形（山口城）および諸門を破却。

ジャスト150年前

1865 慶応元年

- 1月6日 藩内武士団蜂起、大田・絵堂の戦」が勃発。
- 1月28日 敬親、藩内の政務総令を宣言。「時令」を発令。
- 2月2日 内訌戦終息し、藩論統一。
- 2月27日 敬親萩を出て、絵堂・大田の戦績を巡覧し、湯田に泊す（28日）。
- 3月 再び高嶺屋形に入る。
- 3月14日 昔日・福原・国司の三家老の名を再興する。
- 3月23日 藩論「武備恭順」に決す。
- 4月8日 山口新御屋形（山口城）の破損所修築（慶応の修築）と山口諸口の関門再建を令す。
- 4月12日 幕府長州再征を令す。
- 5月23日 文武興隆・兵制改革を令す（慶応の軍制改革）。
- 閏5月28日 保守派（俗論派）の粛清が始まる。
- 6月9日～ 対幕府応戦のため兵制改革。
- 9月21日 朝廷幕府の長州再征を許す。
- 11月7日 幕府彦根藩以下31藩に出兵を命ず。

1866 慶応2年

- 1月20日 （慶長元年）に成る。
- 4月20日 敬親、「第二次征伐」・「時令」を撤廃する。
- 4月27日 敬親が幕府敵の要求を受諾。
- 5月15日 山口新御屋形（山口城）の第一次修築（慶応の修築）がなり、敬親この日初めて入城。
- 6月 石州口の役（四境戦争）が始まる。
- 7月7日 幕府が石州口の長藩領を攻撃。
- 7月 長州藩、小倉攻略。城下小笠原氏降伏。
- 8月 芸州口藩の敗北、長州藩撤退。
- 8月9日 幕府、諸藩の政務総令を廃止。
- 9月 広島藩士、幕府撤兵を説く。
- 9月 幕府、幕府撤兵を説く。

1867 慶応3年

- 1月 四境戦争終結。
- 1月 長州藩、「ええじゃないか」起る。
- 8月 長州藩父子の罪を許し、討幕の密勅を下す。
- 10月 大政奉還。
- 10月 討幕出兵軍、海路発進。
- 10月 王政復古大号令。
- 12月 島津・伊達・松平・浅野藩、兵庫開港勅許。
- 12月 五箇条御誓文。
- 12月 江戸開城。
- 12月 明治改元。一世一元の制を定める。

1868 明治元年